

# 外務省主催 平成28年度在外安全対策セミナー (概要版)

在メキシコ日本国大使館

2016年10月

SOMPOリスクアマネジメント株式会社

Copyright © 2016 Sompo Risk Management & Health Care Inc  
& Arcis International All rights reserved.

## メキシコおよび周辺国の危険情報



- テワワ州フアレス市、タマウリバス州マタモロス市、レイノササ市及びヌエボ・ラレド市：

「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」(継続)

- ミチョアカン州(モレリア市、パツクアロ市、ラサロカルデナス市、アンガンゲオ市及びその周辺地域を除く)：

「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」(継続)

凡例：「レベル1：十分注意してください。」  
・その国・地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。

「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」  
・その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとってください。

- ミチョアカン州モレリア市、パツクアロ市、ラサロカルデナス市、アンガンゲオ市及びその周辺地域：

「レベル1：十分注意してください。」(継続)

- タマウリバス州(マタモロス市、レイノササ市、ヌエボ・ラレド市を除く)、チワワ州チワワ市、シナロア州マサトラン市及びクリアカン市、バハ・カリフォルニア州ティファナ市、チアパス州クアウテモック市、イダルゴ市、タリスマン町、コアウイラ州トレオン市、ドゥランゴ州ゴメス・パラシオ市、レルド市、ゲレロ州(タスコ市、シワタネホ市を除く)及びそれらの周辺地域、メキシコ市クアウテモック区テビート地域：

「レベル1：十分注意してください。」(継続)

- ヌエボ・レオン州モンテレイ大都市圏及びそれらの周辺地域：

「レベル1：十分注意してください。」(継続)

注：モンテレイ大都市圏(アボダカ市、ガルシア市、ヘネラル・エスコベード市、グアダルーペ市、フアレス市、モンテレイ市、サンタ・カタリーナ市、サン・ニコラス・デ・ロス・ガルサ市、サン・ペドロ・ガルサ・ガルシア市の9市)

- 上記を除くすべての地域：

「レベル1：十分注意してください。」(継続)

「レベル3：渡航は止めてください。(渡航中止勧告)」  
・その国・地域への渡航は、どのような目的であれ止めてください。(場合によっては、現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。)

「レベル4：退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)」  
・その国・地域に滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。この状況では、当然のことながら、どのような目的であれ新たな渡航は止めてください。

## メキシコにおける治安リスク

治安リスクは地域的なものが目立ち、年により非常に流動的である。

路上犯罪	麻薬関連の犯罪	注意すべき犯罪	政治問題
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 多くの都市部で計画性のない(衝動的な)犯罪が横行</li><li>■ <u>ひったくり、スリ、強盗といった犯罪が多発</u></li><li>■ 信号待ちの間に武装した犯人に車を奪われる事件が発生</li><li>■ 留守中の住宅侵入</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>麻薬に関連した犯罪はほとんどが暴力的</u></li><li>■ ティファナ、フアレス、ヌエボラレド、レイノサ、マタモロス、タンピコ、シウダ・ビクトリアの隣町との境界地域、シナロア州、ミチョアカン州では麻薬に絡んだ犯罪が横行</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 中流・上流階級の個人を狙った誘拐事件が多発(駐在員のリスクは一般的に高くない)</li><li>■ メキシコシティとモンテレイでは<u>短時間誘拐</u>が発生</li><li>■ 企業や個人を狙った恐喝事件は発生</li><li>■ バーチャル恐喝、バーチャル誘拐にも注意</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 教員組合「CNTE」によるデモはメキシコシティでも混乱が生じている。チアパス州では暴徒化も</li><li>■ ミチョアカン州における自警団の問題</li><li>■ ゲレロ、オアハカ、タマウリパス、ハリスコなどの州でも自警団が活動</li><li>■ 汚職、メディアの抑制、利益相反などによる政情不安</li></ul>

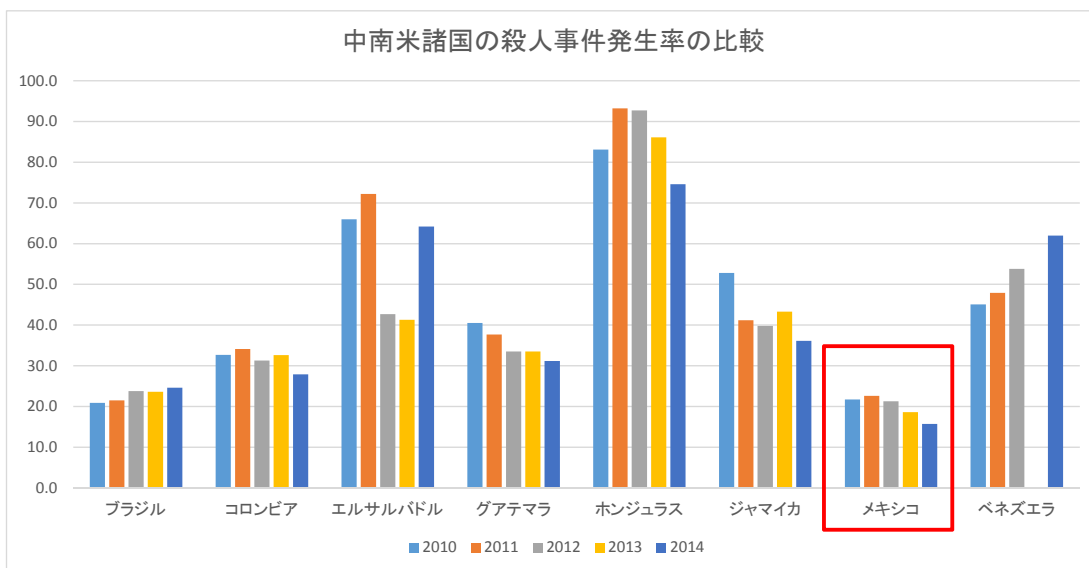
## メキシコにおけるデモ情勢

- ペニャニエト大統領は就任以来は教育改革を推進。教員評価の義務付けや教員採用試験の採用などを盛り込んだ政策に教員組合「教育労働者全国協議会(CNTE)」は反発、抗議活動を展開している。
- CNTEの影響力の強いオアハカ州、ミチョアカン州、チアパス州、ゲレロ州ではデモが活発化。
- 2016年6月にはメキシコシティでも大規模な教員デモが行われる。オアハカ州ノチストランではデモ隊と警官隊が衝突、10人が死亡した。
- その後も教員の抗議活動は続き、チアパス州では8月以降も公立学校の授業が再開できないなどの事態に陥った。
- オアハカ州、ミチョアカン州、チアパス州、ゲレロ州の4州では、高速道路や港湾、商店なども封鎖され、経済的に大きな損失も出ている。

## メキシコシティ 抗議デモの行進ルート

- メキシコでのデモは教員組合「教育労働者全国協議会 (CNTE)」によるものが大半を占める。
- レフォルマ・アベニューでは以下のような別の問題に関するデモも行われている。
  - ・農業
  - ・同性愛者の権利向上
  - ・平和主義
  - ・治安の問題 など
- デモは通常、平和的に行われ、通りの半分が封鎖される。
- しかし、1968年に起きた学生デモ弾圧の犠牲者を悼むデモが暴徒化した。
- デモ発生時における懸念事項は交通渋滞と混乱に乗じた窃盗である。
- オアハカ州およびゲレロ州でのデモは暴徒化することが珍しくない。

## メキシコにおける犯罪(続き)



出典: 国連薬物犯罪事務所 <https://data.unodc.org/>. 最終アクセス日: 2016年7月6日

## 安全対策の基本

---

### ■ 安全行動の3原則

- 一、目立たない
- 一、用心を怠らない
- 一、行動を予知されない

### ■ とくにメキシコシティでの具体的注意事項

- 住宅の選択  
(アパート3階以上がベター)
- 住居の設備(鍵は3つ以上等)
- 外出(短時間でも鍵をかける等)
- 路上(高価な装飾品禁物等)
- 車の整備(保険加入等)
- 車の駐車(暗い場所はNG等)
- 車の運転(行動パターン化NG)
- 交通機関(リブレはNG等)
- 使用人(邦人の間での評判)
- 来客(ドアは容易に開けない)
- 電話(緊急連絡先の保有)
- 日常生活(現地に溶け込む)

## 日本人が被害に遭いやすい事例

---

(置き引き、スリ・ひったくり、睡眠薬強盗、詐欺など)

### ■ 空港にて

ロビー内にいたところ、いきなりスペイン語で話しかけられ、相手に注意を削がれている間に、別の人が、床に置いてあったカバン(現金とパソコン等)を持ち去った。

### ■ カフェにて

博物館で展示物について説明してくれた大学生らしき人にカフェに誘われた。博物館の研究者だということで、お礼のために飲み物でもご馳走しようとカフェに行ったら、コーヒーを飲んですぐに眠くなった。目覚めるとひどい頭痛で、所持品をすべて盗られていた。

### ■ タクシーにて

タクシーを利用した際に、運転手からカードでの支払いを求められ、これに応じた結果、直後に覚えのない現金がカードで引き下ろされていた

### ■ 路上にて

背中に背負っていたリュックのファスナーがいつの間にか開けられ、中の旅券や現金が抜き取られていた。

### ■ レストランにて

レストランで席を確保のために荷物をテーブルの上に置いていたところ、カバンごとなくなっていた。中には、クレジットカードや現金が入っていた。

## 外出時の安全対策の基本

---

- 徒歩での外出は極力控える ⇒ 近くても車で移動する
- 夜間の外出は控える(犯罪の多くは夜間に発生)
- 1人での徒歩での外出は極力控える
- 目立たない服装を心掛ける
- 所持品は奪われても後悔しないものだけを持ち歩く
- 携帯電話・スマートフォンは、建物の中などでのみ使用する
- 可能な限り複数で行動する
- 車を乗り降りする時は周囲に不審人物がいないか確認する

## 家族の安全対策の基本

---

- 自己防衛の意識を徹底させる
- 家族の行動予定について、むやみに必要以外の人に話さないよう指導する
- 子供の安全については日本にいる時以上に注意を払う  
(一人での外出はさせない、居場所を常に把握しておくなど)
- 緊急時の連絡先リストを作成し常時携帯する
- 緊急時に備え、家族全員の行動・居場所を常に把握し、いざという場合に互いに連絡が取り合えるようにしておく。
- 緊急時の集合場所や避難場所を決めておく

## アパートのセキュリティ

---

### メリット

- サーベイランスをされにくい
- 住人が目立ちにくい
- ジムや店などを備えているアパートでは外出を減らせる
- 敷地の出入口の警備がしっかりしていれば侵入されにくい

### デメリット

- セキュリティレベルは管理会社により異なる
- 建物内の住人に関する情報を把握するのが困難
- 高層階など緊急時の避難が難しい
- 敷地境界から建物のセットバックが小さい場合は侵入や逃走が容易で危険

## 住宅での備え(安全性チェック)

---

外務省海外安全HPにある「海外赴任者のための安全対策小読本」のチェックリストを使用して、家の安全性をチェックしてみましょう！



(出典:外務省海外安全ホームページ  
「海外安全お役立ち情報」)

## 車に係る犯罪手口

---

- ロードブロック→障害物、追い越し車両で道路を遮断して、車両を停車させる手口
- 走行中のガンポイント→無理に停車させて襲う手口
- 後方から故意に追突→停止した瞬間を襲う手口
- 交差点停止中→交差点近くで待ち伏せし、停車車両を襲う手口
- 渋滞で徐行・停車中→徐行中に近づき拳銃で脅し金品を要求する手口
- 自宅・オフィス前で開門を待つ間→犯人がゲート近くで待ち伏せし帰宅車両を襲う手口
- 駐車場で待ち伏せ→レストラン、スーパーマーケットの駐車場で待ち伏せし乗降時に襲う手口
- 銀行(ATM) 付近で待ち伏せもしくは追尾→ATM利用後に襲ったり、拉致する手口
- 騙して停車させる→交通事故、急病人、ヒッチハイク等を装って、徐行・停車させて襲う手口
- 横断歩行者で停車させる→横断歩行者が強盗に変身する手口
- 駐車車両にパンク工作→しばらく走行してからパンクに気づき、修理中に襲う手口
- 投石・銃撃、歩道橋上からの落下物→停車後に襲う手口

## 装甲車

---

装甲車の窓は一般的な窃盗を防げるだけでなく、大口径の銃器からも保護する。

保護フィルム：強盗犯が窓を傷つけることからの保護。

T4：ハンドガンやピストルといった小型の武器からの保護

T6：強力なライフルからの保護

T8：徹甲弾を用いたライフルからの保護

(注)保護の基準には様々な国際基準がある。赴任あるいは滞在する地域のリスク(小型武器、大型武器、徹甲弾など)によってどのタイプの装甲車を利用するか決める。

### 検討事項

- 装甲車のタイプと必要な防御レベルを決定する。
- メキシコ北部では、装甲SUV車は麻薬カルテルによる盗難の標的となっている。
- メキシコシティとバヒオ地区では中型SUVの盗難が増加している。
- 技術的な課題:
  - － 自分の滞在する地域に適した装甲車を選ぶ。
  - － ランフラットタイヤを備え付けていること。
  - － 対妨害機能を備えたGPSTラッキングを装備する。

## 誘拐対策

---

犯行グループは誘拐を必ず成功させるため、必ず事前に誘拐候補の身辺調査・監視活動を行い、ターゲットを決める。警戒心が高い人は、誘拐候補リストから除外される。

- 目立たない(服装、車など)
- 予測可能な行動(パターン化)はしない。  
(自宅を出る時間、目的地での到着時間、移動ルートを変更する)
- 個人情報の管理を徹底する。  
(行動予定、仕事関連)
- 家や会社の周辺では監視活動に注意する。
- 不審な電話などに注意する。
- 通勤途中で助けを求められる場所を調べておく。

---

## Express Kidnapping(短時間誘拐)対策

---

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>■ 予 防</li><li>● 夜間は一人で外出しない</li><li>● ATMは夜間に使わない。日中、建物の中にあるATMを使う</li><li>● レストランやバーを出るときは、監視している人物がないか確認する</li><li>● 短時間誘拐が多発している場所では目立たないようにする</li><li>● 誘拐されたら誰に電話すべきかを覚えておく</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 誘拐されたら</li><li>● 犯行手口を知る<ul style="list-style-type: none"><li>・ATMを渡り歩く</li><li>・少額の身代金で解放される</li></ul></li><li>● 落ち着いて対応し、犯人の指示に従う</li><li>● 単なる強盗が短時間誘拐に発展することもある</li><li>● 預金額など資産に関する話や、住所、勤務先、役職などの情報は明かさない</li></ul> |
|--|--|



## デモ・暴動リスク

- 多くの国ではデモや暴動が断続的に起きている。
- デモや暴動は、一定の層が不満を表したり、注意を喚起する手段として起こされる。
- デモには、政府の許可や支援を受けているものもあれば、無許可で政府に不満を唱えるものがある。
- 多くの国では、政治的なデモに外国人が参加することは違法とされている。また、デモの写真を撮ることも禁止されている。
- たとえ政府が許可し、平和的に計画された政治デモであっても、暴力的な人々が不満を表すために参加して、暴動に至るケースも多い。
- 治安機関による強制的な制圧により、被害を受ける危険性がある。

### 【被害予防と遭遇時の対応】

- 大使館等の注意喚起を毎日確認し、デモ等が行われている場所に行かない
- その場からすぐに離れる、隠れる、安全な場所へ避難する
- 乗車車両への投石や放火、襲撃の危険性がある場合は、下車して遠ざかる
- すぐに逃げるのが困難な場合は、事態が落ち着くまでレストランや店の中など安全な場所を探す
- カメラや時計、装飾品など貴重品はしまう
- 写真を撮らない
- 暴動が起きている場所から安全に逃げられない場合は、気の利いた従業員などに助けを求める

## 世界的なテロの脅威と邦人被害

- 2015年 ■ 1月7日 フランス パリで風刺週刊誌編集部襲撃事件 12人死亡
- 1月～2月 シリアにて**日本人2人殺害**事件
  - 3月18日 チュニジア バルドー国立博物館襲撃事件 21人死亡(**邦人3人死亡**)
  - 6月26日 チュニジア スースの高級リゾート・ホテル襲撃事件 38人死亡
  - 8月17日 タイ バンコクのエラワン廟で手製爆弾が爆発 20人死亡(**邦人1名重体**)
  - 10月3日 バングラデシュ 北西部ロングプール県で**日本人男性が銃撃され死亡**
  - 10月10日 トルコ アンカラ駅前で連続爆弾テロ 100人超が死亡
  - 10月31日 エジプト発のロシア機がシナイ半島上空で墜落 乗客乗員224人死亡
  - 11月13日 フランス パリで同時多発テロ 130人死亡 350人超負傷
  - 12月2日 米国 カリフォルニア州サンバーナーディーノの福祉施設で銃乱射 14人死亡
- 2016年 ■ 1月12日 トルコ イスタンブールの観光名所で自爆テロ ドイツ人ら12人死亡
- 1月14日 インドネシア ジャカルタで爆弾テロ・銃撃戦 カナダ人ら4人死亡(**日本人会至近**)
  - 3月22日 ベルギーブリュッセルで同時多発テロ 32人死亡
  - 6月12日 米国 フロリダ州オーランドで銃乱射事件 49人死亡
  - 6月28日 トルコ イスタンブールの空港で爆弾テロ・銃撃 44人死亡
  - 7月1～2日 バングラデシュ レストラン襲撃事件 **日本人7人を含む**22人死亡
  - 7月14日 フランス ニースでトラックが花火見物客に突っ込み82人死亡
  - 9月17日 米国 NJとNYで爆弾が爆発 NYチェルシー地区で29人負傷

## ハイリスク国の空港での安全対策

---

- 夜間や早朝の到着便は避ける
- 服装・行動は目立たないようにする(スーツは着ない)
- タクシーは極力使用せず、送迎車を必ず手配する
- 荷物用タグには社名は個人名記載しない
- 出迎者の名前と写真を確認し、事前に決めた暗号などを書いてもらう
- 送迎車両までの空港内徒歩移動であっても、必要に応じて警備員に同行してもらう
- 出発時、到着時はロビーに長居せず速やかに通過する(Fast Track Serviceの活用)

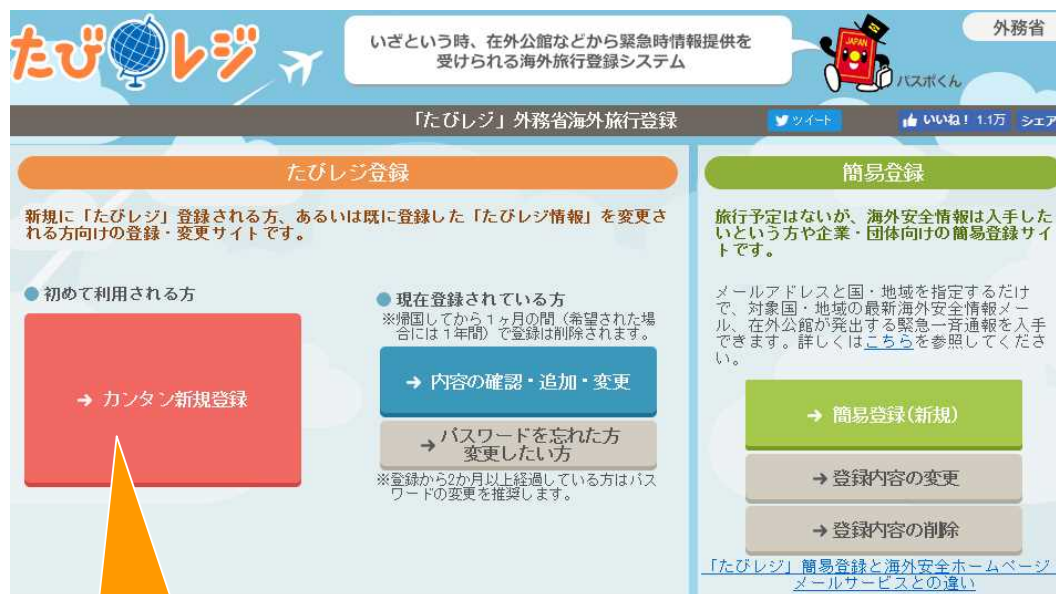
## ホテルでの安全対策

---

- 敷地境界から建物までのセットバックが小さいホテルや周囲3方が囲まれているホテルは避ける
- できるだけ3-6階、通りに面していない部屋がよい
- 襲撃や犯罪者の混在リスクに鑑み、ロビーに長居しない
- ホテルの部屋のドアは常に鍵・チェーンをかける
- 『Do Not Disturb』のサインを掲げる
- 訪問者が来てもドアを容易に開けない
- 貴重品はSafety Boxに入れておく
- 非常口を歩いて確認しておく
- 在室中はカーテンを閉めておく

## 出張者や第三国への出張時の対応

### たびレジへの登録



登録しましょう！

出典：外務省「たびレジ」登録画面

20

Copyright © 2016 Sampo Risk Management & Health Care Inc & Arcis International All rights reserved.

## 組織として実施すべき危機管理(現地)

### ■ 現地リスク調査

- セキュリティ・コンサルタントを活用した現地リスク調査

### ■ 危機管理訓練

- 現地・本社と共同で有事発生時を想定した訓練の実施

### ■ 情報収集

- 大使館・セキュリティ会社などからの情報収集

### ■ 警備員

- 訓練を受けた運転手、非武装警備員、武装警備員、防弾車
- 現地では目立たない車両、運転手、武装警備員を推奨(非番の警察官など)

### ■ 危機管理マニュアル

- 有事を想定した現地用危機管理マニュアルの策定
- 現地用緊急国外退避計画

### ■ トラッキング

- 活動地域によっては、トラッキング・サービスの導入を検討(パニック・ボタン付き)

21

Copyright © 2016 Sampo Risk Management & Health Care Inc & Arcis International All rights reserved.